

# 昭和工業 東洋大と屋上緑化実験

## サツマイモ25キロ収穫

環境設備工事の昭和工業（川越市石原町、石井成人社長）は、二〇〇二年から、東洋大学工学部環境建設学科の研究室と共同で屋上緑化の実験を実施。このほど、断熱効果の研究で今年六月から栽培を始めた川越名物「サツマイモ」二十五キロを収穫した。サツマイモ資料館の井上浩館長からも高評価を得て、石井社長は「屋上でこれほど収穫できるとは思わなかった」と驚いている。

環境設備工事の昭和工業（川越市石原町、石井成人社長）は、二〇〇二年から、東洋大学工学部環境建設学科の研究室と共同で屋上緑化の実験を実施。このほど、断熱効果の研究で今年六月から栽培を始めた川越名物「サツマイモ」二十五キロを収穫した。サツマイモ資料館の井上浩館長からも高評価を得て、石井社長は「屋上でこれほど収穫できるとは思わなかった」と驚いている。

今回研究を行ったのは、同学科四年の長谷川すばるさんと鳥井数広さん。同社屋上に設けた二・八平方メートルの畑を高さ十センチほどのレンガで囲み、十二株の苗を植えた。夏には葉も茂り、ツルも伸びて土を覆うまでに成長。真夏に温度測定したところ、コンクリート部分よりサツマイモの葉やツルが覆う部分が三十分も低く、断熱効果が確認できた。研究もほぼ終了し、収穫期を迎えたサツマイモ畑を掘ると、予想以上の出来栄え。長谷川さんらは「十センチしかない土の中で育つとは」と思わぬ豊作に笑顔を見せた。

石井社長は共同研究について「毎年学生の論文を見ているが、内容、精度とも濃い。こちらも参考になる」と成果を評価。サツマイモ栽培については「屋上緑化を身近に感じてもらう」との手段として広めたいと語った。（浦川透）



栽培したサツマイモを手にする石井社長（左）と長谷川さん（中央）、鳥井さん